

○ 有機物リサイクルセンター美土里館は、牛ふん、生ごみ、もみがら、森林資源などの地域資源を堆肥化し、県内外へ販売している。

■ 国内資源の種類 ■ 肥料の種類・肥料名称

- ・牛ふん
- ・生ごみ
- ・もみがら
- ・落葉
- ・間伐材

- ・種類：特殊肥料（堆肥）
- ・肥料名：美土里たい肥

■ 取組の経緯・内容・成果

取組の経緯

・平成11年の「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」成立・施行に伴い、地域の酪農家においてふん尿処理が経営上の問題となるおそれが出てきたことや、ごみの焼却・埋め立てが社会的に問題になってきたことなどから、これらの「不用物」を貴重な「資源」と捉えて、地域のために有効利用を図ることを目的に平成15年に堆肥センターを建設、堆肥の生産を開始。

取組の内容

・酪農家から収集した牛ふん、町内の一般家庭やスーパーからの生ごみ、稲作農家からのもみがら、近隣住民が収集した落ち葉などを原料に、約105日かけて好気性発酵を行い、堆肥化。収集運搬方法や受け入れ条件（処理料など）、原料の前処理などについて試行錯誤を行いながら、堆肥化に適した原料を安定的に確保してプラントを安定稼働させる方法を確立。

成果（見込み）

・美土里たい肥を使用した農産物を「美土里たい肥栽培農産物」として町が認定し、その農産物に「美土里シール」を貼って有利販売。農家支援にも繋がっている。

■ 作物

- ・水稲
- ・イチゴ
- ・ニラなど

■ 主成分の含有量（%）、特徴等

N	P	K	C/N比	pH
0.8	0.5	1.0	22	8.8

美土里たい肥で生産した農産物は町が認定し、「美土里シール」を貼って販売されている。

■ 主たる取組主体と肥料利用までの流れ



■ 今後の課題・取組

- ・堆肥センターの効率的な管理運営
- ・堆肥の特徴（完熟たい肥）を活かした栽培方法の確立
- ・堆肥を使った地域おこし、農作物のブランド化
- ・美土里館の更新（施設の老朽化）



円形発酵槽



美土里シール